

# 2014 年度 台湾 JIP 報告書

## 国立屏東大学応用日本語学科

姫路獨協大学 外国語学部日本語専攻 3 年 永田眞子

研修先	国立屏東大学 応用日本語学科 90004 台湾屏東民生東路 51 号																
研修期間	2015 年 3 月 2 日(月)～2015 年 3 月 27 日(金) 滞在期間：2015 年 2 月 28 日(日)～2015 年 3 月 28 日(土) ※土日は休日。																
研修内容	<table border="1"><tr><td>オリエンテーション</td><td>: 50 分×2 コマ</td></tr><tr><td>フィードバック</td><td>: 50 分×2 コマ</td></tr><tr><td>講義「台湾の日本語教育」</td><td>: 50 分×1 コマ</td></tr><tr><td>サバイバル中国語</td><td>: 50 分×8 コマ</td></tr><tr><td>授業見学(校内)・T A</td><td>: 50 分×64 コマ</td></tr><tr><td>授業見学(校外)</td><td>: 50 分×6 コマ</td></tr><tr><td>檀 上 実 習</td><td>: 50 分×8 コマ</td></tr><tr><td>合計</td><td>: 91 コマ</td></tr></table> <p>※授業見学・T Aの割り振りは、一年生の初級クラスが 49 コマ。その他のクラスが 12 コマである。空き時間を利用し、担当クラス以外も見学(TA)することが可能。</p> <p>※研修以外にも、学校の行事・活動にも多く参加させていただいた。</p>	オリエンテーション	: 50 分×2 コマ	フィードバック	: 50 分×2 コマ	講義「台湾の日本語教育」	: 50 分×1 コマ	サバイバル中国語	: 50 分×8 コマ	授業見学(校内)・T A	: 50 分×64 コマ	授業見学(校外)	: 50 分×6 コマ	檀 上 実 習	: 50 分×8 コマ	合計	: 91 コマ
オリエンテーション	: 50 分×2 コマ																
フィードバック	: 50 分×2 コマ																
講義「台湾の日本語教育」	: 50 分×1 コマ																
サバイバル中国語	: 50 分×8 コマ																
授業見学(校内)・T A	: 50 分×64 コマ																
授業見学(校外)	: 50 分×6 コマ																
檀 上 実 習	: 50 分×8 コマ																
合計	: 91 コマ																
費用	生活費(食費・交通費・雑費) 約 3 万円 ※旅行費・お土産代は含まない。 ※航空機・保険料・国内の交通費は姫路獨協大学から奨学金を給付して頂いた。宿泊は受け入れ先の国立屏東大学から女子寮を無料で提供して頂いた。																

### ● 研修先

国立屏東大学は台湾南部の屏東県にあり、高雄小港国際空港からは車で約 40 分、最寄り駅である屏東駅からはバスで 10 分程度の位置にある。キャンパス内の女子寮から教員のオフィスや応用日本語学科の教室までは 5 分。大学からバス停までも徒歩 5 分程度であり、近隣にはスーパーや飲食店もあり、非常に便利である。また、校内に ATM が設置されてお

り、24時間使用可能である(国際キャッシュカード、トラベラーズチェック対応)。

- 講義内容(「台湾の日本語教育」「サバイバル中国語」)

研修初日に行われた「台湾の日本語教育」という講義では、世界の中で台湾が、日本語学習者や教師が5番目、機関が6番目に多いという現状について学んだ。国立屏東大学、応用日本語学科では、4年間で教科学習(日常言語能力)としての日本語から、簡単な日常会話ができる力(認知学習能力)へと変化させることを目的としている。実習生が教室活動に参加することで、教室が現実のコミュニケーションの場となり、アウトプットがしやすい状況になるため、積極的に交流してほしいとの話を聞いた。

実習生を対象に開校された「サバイバル中国語」の授業ではとても基礎的な内容を学んだ。また、台湾人の先生による直説法で行われた。そのため、直説法の授業を受ける外国語学習者の視点に立つことができ、とても身に沁みた。

- 校外授業見学



屏東女子中学では、一年生の授業を見学した。日本語のレベルは高くないが、積極的に話しかけてくれる。「どんな飲み物 / 食べ物が好きですか」「血液型 / 星座 / 趣味は何ですか」という基礎的な日本語で会話練習を行った。

長青学苑では、かつて日本で働いていた人や、日本語を習ったことがある年配の方々と交流を行った。語彙が多く、日本についての造詣も深い。日本で言う、カルチャースクールのようなものである。先生が「このような授業では、いかに飽きさせず次も来たいと思わせるかが重要」と仰っていたのが印象的だった。幅広い知識が必要なのだとよくわかった。



千葉幼稚園では、3歳以上の子供を対象に、語学習得を含めた教育を行っていた。園内では、英語・日本語の学習を中心に、スペイン語など別の語学の授業も行われており、絵本や廊下での掲示物は、様々な国のものが集まっている。少人数授業が特徴的であり、先生一人につき生徒は10人程度であった。中にはN2を習得する生徒もいるという。

- 校内授業見学

私が見学させて頂いたのは、主に応用日本語学科一年生のクラスである。一年生の授業ではティームティーチングが行われており、以下の4つの授業を通して日本語を習得して

いく。

- ・ 日語(二) (文型導入)
- ・ 日語會話(二) (文型練習)
- ・ 日語聴力練習(二) (聴解練習)
- ・ 日語發音(二) (読解・發音練習)

「日語(二)」「日語聴力練習(二)」「日語發音(二)」は学生 64 名に対する一斉授業で行われる。「日語會話(二)」ではAグループとBグループ、各 32 名に分かれ、グループワークやペアワークなど教室活動を行うことが多い。基本的に 2 課に 1 回の割合で復習の時間を設けている。「日語聴解練習(二)」「日語發音練習(二)」では、「日語(二)」「日語會話(二)」で前の週に教えた課を扱う。これは、同じ週に 4 つの科目が同じ文型を扱うと記憶に残らないためである。

見学した他学年授業は以下の通り。

- ・ 新階日語(二) 二年生
- ・ 新階日語會話(二) 二年生
- ・ 日語寫作(五) 三年生

「新階日語(二)」では主に文章読解、班による担当文型の例題作成、発表者による文章解説が行われる。纏まった文章を読むことにより読解力を付け、発表により文章解説を行うことで自分で構造を把握する力を付けることを目的としている。「新階日語會話(二)」では、場面会話の練習を行う。「日語寫作(五)」では、より発展的な内容となり、発表中心の授業が行われる。私が見学したときは、「台湾の紹介」という題材で政治・言語・習慣・歴史などのプレゼンテーションが行われた。

#### ● 壇上実習

壇上実習は全部で四回担当させてもらった。「日語(二)」で導入、「日語會話A(二)」で文型練習を二クラス、二回目の「日語(二)」で復習という、普段はティームティーチングにより行われている一連の流れを実習で行った。必要プリントは応用日本語学科のオフィスにて印刷できる。



#### ・ 第一回実習内容

科	目	名	:	日語(二)
対		象	:	応用日本語学科 一年 64 名

指 導 教 官 : 李欣怡 先生  
実 習 日 : 3月18日(水) 5・6限  
担 当 箇 所 : 『大家的日本語』第25課「～たら」導入  
使 用 教 材 : 『大家的日本語』第25課(例文/練習A1-2)、自作プリント(導入時のゲーム)、スクリーン(和菓子・日本の観光地の写真)、マイク  
フィードバック (+)

- ・教材の準備がしっかりとしていた。
- ・指示がわかりやすく、全体に目線をやれていた。
- ・ゲームで盛り上げ、日本文化が盛りだくさんだった。
- ・声がよく通っており、発音が丁寧。
- ・生徒の当て方が良かった。

(-)

- ・コーラスの時、答えを先に言ってしまっている。後ろの席の生徒も答えるまで時間を置く。遅すぎるぐらいでちょうどいい。
- ・アクセントの揺れがあった。(「百円」「道頓堀」)
- ・生徒の視線が今どこにあるのか意識する。
- ・Vない形の指導順番は、「たら」をすべて提示した後がよい。

感 想



学生数が多いということもあり、反応があまり返ってこない。和菓子や日本の観光地を題材とした練習は受けがよく、盛り上がった。どうしても前の席の学生を意識してしまい、後ろの席を見逃しがちなので、注意したい。また、生徒の視線が今どこに向いているのかを意識しながら授業を行いたい。

・第二回・三回実習内容

科 目 名 : 日語会話(二)A・B  
対 象 : 応用日本語学科 一年 32名×2クラス

指導教官：劉秋燕 先生  
実習日：3月19日(水) 1-4限  
担当箇所：『大家的日本語』第25課「～たら」練習  
使用教材：『大家的日本語』第25課(練習B1-3,4,7)、イラスト(B3、『絵で導入』の対応箇所)、自作プリント(練習問題(後半自作など)、インタビュープリント)、スクリーン(イラスト練習、インタビュー説明時に使用)

フィードバック (+)

・指示がわかりやすく、声が綺麗で発音も聞き取りやすい。学習者から信頼が得られる。

・文型練習が上手くできていた。

(-)

・インタビュー形式の練習の時、一人になる生徒がいないよう注意する。また、「ドラえもんに何をしてもらいますか」の意味を勘違いしている生徒がいた。訂正が必要。

・マイク無しの授業だと、のどの調子が悪くなり、体力の消耗が激しくなるため、長い教師生活で考えた際、マイクを使用するほうがよい。

(その他：自己反省記録でのコメントへの返信)

>生徒にインタビューの答えを聞いた際、マイクを使用すべきだった。

→ マイクは学生たちを緊張させるため、シッターと言って静かにしてもらって、発表者に大きい声で言ってもらったほうがよい。

感想



麗澤大学の実習生の方々の協力もあり、流れを切らず、テンポ良く進めることができた。グループワーク、インタビュー形式の練習を行った。しかし、やはり説明し忘れた項目や、指示が揺れることもあった。広い視点を持ち、余裕を持ちたい。

・ 第四回実習内容

科 目 名	: 日語(二)
対 象	: 応用日本語学科 一年 64名
指 導 教 官	: 李欣怡 先生
実 習 日	: 3月18日(水) 5・6限
担 当 箇 所	: 『大家的日本語』第25課「～たら」 復習
使 用 教 材	: 『大家的日本語』第25課(練習 C3-6)、自作プリント(練習 C6 自作文、読解教材、教室活動(マジカルバナナ)など)、マイク
フィードバック	(+)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テンポがよく、答え合わせがわかりやすい。</li> <li>・声も発音もしっかりしていた。</li> <li>・教室活動で、生徒が楽しそうだった。</li> <li>・レスポンスがよい</li> </ul>
	(-)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェスチャーの不足</li> <li>・練習 C3-3 正答の説明不足</li> </ul>
感 想	: 四度目ということもあり、前回と比べると、安定した授業をすることができた。68人という大人数で教室活動を行ったため、指示が正確に通っていないこともあった。しかし、学生が集中し、コーラスの時も積極的に声を出してくれたため、非常にやりやすかった。授業外での先生と学生の関係の大事さをつよく実感した。

● 放課後



授業外でも生徒と交流する機会が多い。応用日本語学科一・二年生によるスポーツ大会や学校交流会、クラブ活動による発表会、チアリーディングの大会や日本語紙芝居大会に向けての練習など、学生たちは夜遅くまで活動を行っていた。また、歓迎会・送迎会も行ってくれた。

## ● 生活



大学付近には飲食店が多く、食事に困ることはない。24時間営業のコンビニもある。一食 50 元前後と格安である。学食は営業時間が～7:00 までと早めなので注意。

気候は朝と昼の落差が大きい。また、蚊が多いため、かゆみ止めの薬や長袖の服を持っていくことをお勧めする。女子寮は四人一部屋。各階に冷水器・給湯器、洗濯機・脱水機がある。冷蔵庫は共同であるため、名前を書いて使用する。お風呂はなく、シャワーのみである。基本的にシャワー室も土足なので、ビーチサンダルを持っていくと便利である。

研修が無い土曜日・日曜日には、様々な場所へ観光に行った。学生たちが積極的に誘ってくれる。最寄り駅の屏東から高雄まではおよそ 30 分。屏東駅前のバス停からは、台北行きの夜行バスも出ている。日帰りで様々な場所に行くことが可能。運賃が安いので、公共交通機関を最大限利用するとよい。

## ● 研修を終えて

この台湾の一カ月の研修を通して、先生方の熱意や努力を肌で感じる事ができた。一時間で学生に教える項目は、私が想像していた以上に多く、授業はとても速いスピードで進んでいく。始めに授業を見学させて頂いたときは、学生がついていけるのか、と驚いた。そんな授業時間の中でも教材、指導法、練習法……。例題で出ているたった一文についても、事細かに考え分析し、工夫する先生方の姿がとても印象的だった。また、その授業についていこうとする学生たちの姿もとても頭に残っている。先生が真剣に学生と向き合い、授業をしようとしているからこそ、学生もそれに答えようと、必死に考えてくれる。普段の学生との信頼関係の大切さを実感した。研修の間で一番嬉しかったことは、学生たちが授業で習った日本語を、私たち実習生に対して頑張って使おうとしてくれたことである。積極的に食事や遊びに誘ってくれたり、メールを送ってくれたり、最後の日には日本語で書いた手紙をたくさんの学生から頂いた。学生たちが試行錯誤して書いてくれたことが伝わり、非常に嬉しかったと同時に、私も学生たちに負けないように、頑張ろうと強く背中を押してもらった。

今回の研修で、自分の日本語に対する意識、言葉を教えるということの意義、現場の実態など、様々なことを学ぶことができた。一カ月、共に研修に取り組んだ麗澤大学の実習生の方々、見学・実習に入らせて頂いた学生のみなさん、そしてご指導頂いた先生方に深く感謝の気持ちを表したい。